

市長提案説明

平成22年秋以降、急速な円高の進行や海外経済の減速懸念、政策効果の一巡から景気の先行きが懸念されていたが、23年に入り基幹産業である自動車生産に底打ち感が出たことから、一部に持ち直しに向けた動きも見られ、2月の月例経済報告でも1月に続き景気判断を上方修正するなど、景気回復に向けた動きが強まってきた。

この経済情勢の中、国において審議されている23年度予算では、22年6月に閣議決定された財政運営戦略に基づき、基礎的財政収支対象経費と新規国債発行額を22年度以下に抑えたものの、少子高齢化社会の進展に伴う社会保障関係費の増加等により、22年度に引き続き、国債発行額が税収を上回る大変厳しい状況となっている。

新年度予算

本市の23年度予算は、財政環境が非常に厳しい中、基本方針として経常的な経費は一層の削減を行った上で必要な予算付けを行い、政策的な経費は事務事業評価の結果や必要性・緊急性を十分に精査し、真に必要なもののみ予算付けを行った。そのため、実施計画事業と認定されたものでも予算計上を見送るなど厳しい判断もした。

一般会計は1084億9千万円、特別会計は641億3870万円、企業会計は310億6776万円で、総額は2036億9645万円となり、22年度当初予算に対し4・9%の減となった。

重点事業

「健やかに安心して暮らせるまちづくり」として、10年にオープンした現在の公衆衛生センターは、市民の健康意識の高まりとともに人間ドック受診者が大幅に増加し手狭になっており、岡崎市医師会が新たな公衆衛生センターを建設する。市民の健康管理及び地域衛生の向上等に寄与することから、

整備費への補助を行う。

また、保育園、幼稚園の安全性・快適性の向上を図るため園庭の芝生化に取り組む。芝生化はけがの防止、温度上昇の抑制、砂ぼこり対策などのメリットの反面、維持管理の手間が多く掛かるため、23年度は保育園、幼稚園それぞれ一園で試験的に芝生化を行い、その効果等を検証していく。

「自然と調和した環境にやさしいまちづくり」として、新一般廃棄物中間処理施設では、22年11月10日から試運転を開始しており、現在、性能試験において機能・能力を確認中である。4月から一般ごみの受け入れを開始し、5月末の本格完成を目指している。

「賑わいと活力あるまちづくり」として、19年度に愛知県企業庁が着手した豊田・岡崎地区研究開発施設造成事業では、計画地内で確認された希少な動植物の保全対策を講じた事業計画の策定を進めており、これを反映した環境影響評価準備書が公告、縦覧された。今後は手続きを迅速に進め、できる限り早期に造成工事に着手していく予定と聞いている。

観光振興では、中国で徳川家康公ブームとなっており、本市では

豊田市、安城市とともに22年に設立した「三河家康公の旅 歓迎団」を活用して観光宣伝活動を行うほか、国、県、経済界と連携して誘致活動の強化と受入態勢の整備を進めていく。

「快適で魅力あるまちづくり」として、東岡崎駅周辺地区整備推進事業では22年12月に完成したパリアフリー化工事に続いて24年度供用開始を目指して東改札口設置工事に取り組む。また、北口駅前広場整備についても22年末に都市計画決定の告示を終えるとともに、用地取得を開始した。

藤川地区整備推進事業では、東部地域交流センター及び道の駅に係る用地取得を終え、24年度での供用開始を目指し、建設工事への着手、周辺道路の整備を進める。

「未来を拓く人を育むまちづくり」として、南中学校の過大規模を解消するため針崎町地内で建設を予定している（仮称）翔南中学校では、22年度用地取得を完了し、25年4月開校を目指して建設事業に着手する。

小中学校の環境整備として、22年夏の猛暑を受け、児童生徒がより快適に授業が受けられるよう、普通教室に天井扇の設置を進める。

